●漢方薬はなぜ免疫疾患に有効か？

中医免疫学入門

劉正才・尤煥文／著　山内　浩／監訳　上村澄夫・国分正英／訳

A５判　ソフトカバー装　184頁　定価 2,800円（〒 310円）

現代免疫学と極めて類似する中医免疫学の発想！

中国の伝統医学には，もともと固有の免疫学的発想と免疫疾患に対する優れた治療方法が保持されています。そして各種の免疫疾患に対する極めて有効な方剤と薬物が豊富に蓄積されています。現代免疫学の目覚ましい発展の中で，今，東洋の免疫学への関心が世界的に広がっています。それは現代免疫学から見て，中医の免疫学的発想が現代免疫学と極めて類似していることへの驚きと，現代免疫学が高度に発展している一方で，免疫疾患に対する理想的な治療方法がまだ開発されていないことにあるといわれます。

本書は，免疫学の立場から，中医学の理論と薬物を体系的にまとめあげ，免疫疾患に対する膨大な実験研究と臨床研究の成果を紹介しており，早くから世界で注目されてきた書籍です。今後の免疫疾患の治療において大いに寄与するものと考えます。

全体は３部からなっています。

第１部：中医学の免疫に関する認識
第２部：中薬と免疫
第３部：よくみられる免疫疾患の治療

◆本書ではまだエイズは取り上げられていませんが，中国ではアメリカ，アフリカ，及び自国内ですでに漢方薬または針灸によるエイズ治療の実績をもっており，多くの報道がなされています。またエイズ以外にも多くの免疫疾患に対する治療経験が蓄積されています。中医学ではなぜこのような免疫疾患への治療が可能であるのか？その考え方，方法が本書で論理的・系統的に説明されています。

（本書はたいへん分かりやすい文体で翻訳されており，きっとご満足いただけるものと思います。）

（平成６年１月31日まで当社にご注文いただきますと，送料無料）

〒272 千葉県市川市宮久保 3－1－5　東洋学術出版社　電　話（0473）71－8337　FAX（0473）72－7060

現代免疫学との接点を解明した本書発刊の意義は大きい

通常、一度患った伝染病には二度と罹らない。この生体に内在する不思議な仕組みを探ることに端を発し近年急速に進展を遂げた免疫学は、この機構が単にウイルスなどの伝染性の外敵と闘うのみならず、内部に発生したガンなどをも排除し、常に生体が一定の機能を営める状態を維持しようとするものであることを明らかにしてきた。こうした生体防御力・調節力の存在を古来より重視し、その正常化・賦活による疾病の治療・予防をめざしてきた中医学の姿勢は、今後の医療に重要な展望を与えるものと確信する。中医学と現代免疫学との接点を解き明かした本書発刊の意義は大きい。

（日本医科大学微生物免疫学教室講師　高橋　秀実）

とによる。

これらの毒性が比較的強い攻堅破積薬は，現在広範に
免疫疾患に使われていて，一定の効果があがっている。
薬単独で，あるいは西洋薬の制癌薬との併用療法がおこな
般的にいって，これらの薬物の制癌効果はまだ理想的なも
副作用が少なく，あるものは細胞性免疫を抑制しないばか
促進作用がある。したがって，これらを使った複方をつくれ
効果が期待できる。

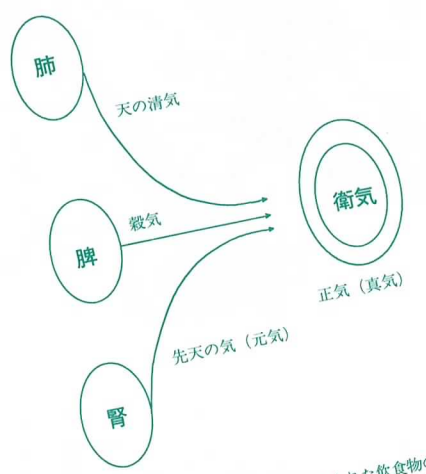
2．免疫抑制の常用方剤

桂枝湯

本方は後漢時代に張仲景が著した『傷寒論』中の名方で，桂枝，
生姜，大棗，甘草からなり，営衛を調和して風邪を駆逐する作用か
日本の学者は実験によって，本方が抗体産生を抑制することを見いた
桂枝湯で蟬退末を服用することによって，アレルギー性鼻炎に有効だ
という報告もある。ほかの報道によると，桂枝湯加減方によって，じ
疹，湿疹，多形滲出性紅斑，皮膚掻痒症，寒冷じんま疹等の皮膚疾患
定の効果があったという[74]。ただし，本方は明らかな熱証（咽喉部が紅
腫れて痛む，紅舌，口渇，黄色尿など）がみられない場合に用いなけれ
ならない。皮膚アレルギーであって，悪風*1・自汗*2があり，寒冷によ
て発症するようなら，本方がファーストチョイスである。

＊1 悪　風――軽度の悪寒で，風にあたったり肌を露出すると寒けを感じるもの。
＊2 自　汗――軽度の自然発汗で，体がしっとり汗ばむもの。日中よく汗をかいたり，少し動くと汗が出るもの。

図2　正気の生成



正気は，腎の元気に起源し，脾に取り込まれた飲食物のエキス（穀気）によって補充され，肺に吸入した天の清気（酸素など）が合体したもので，全身にばらまかれ，身体の正常な生理機能を遂行させる。生体を外邪・内邪から守る衛気は正気のなかに含まれている。

血の化生源である。
以上のことから，正気は肺・脾・腎と密接に関連すること，また，
には免疫能があること，したがって，肺・脾・腎は免疫と密接に関
ことがわかる。

主な目次

緒論
1．中医免疫学発展史の概観
2．中医免疫理論の研究価値
3．中医免疫理論研究の方向と方法

第Ⅰ部　中医学の免疫に関する認識
1．衛気と免疫
2．肺・脾・腎と免疫
陰陽偏盛による病変とその進展法則
陰陽偏衰による病変とその進展法則
腎の重要性
弁証分型と環状ヌクレオチド
温補腎陽薬と環状ヌクレオチド
脾・肺の作用
腎と胸腺
非特異性免疫と衛気
3．経絡・気血と免疫
4．先天的な稟賦・体質と免疫
5．扶正去邪と免疫

第2部　中薬と免疫
1．アレルギー反応各型におよぼす中薬の影響
1．Ⅰ型（アナフィラキシー型）に対する作用
2．Ⅱ型（細胞溶解反応）に対する作用
3．Ⅲ型（免疫複合体による反応）に対する中薬の作用
4．Ⅳ型（遅延型アレルギー反応）での作用
2．中薬免疫促進剤
1．免疫促進作用を有する常用中薬
1．補気薬（黄耆・霊芝・人参）
2．補血薬（当帰・鶏血藤）
3．補陽薬（淫羊藿）
4．補陰薬
2．免疫を促進する常用方剤（四君子湯・補中益気湯・四物湯・生脈散・六味地黄丸（湯）・右帰丸（飲））
3．中薬免疫抑制剤
1．免疫抑制作用のある常用中薬（去風薬と除湿薬・清熱解毒薬・活血化瘀薬・毒性を有する攻堅薬）
2．免疫抑制の常用方剤
桂枝湯・荊防敗毒散・黄連解毒湯・活絡効霊丹
4．中薬免疫調節剤

第3部　よく見られる免疫疾患の治療
感冒・慢性気管支炎・動脈アテローム硬化・虚血性心疾患・糸球体腎炎・甲状腺機能亢進症・慢性萎縮性胃炎・B型肝炎・慢性関節リウマチ・全身性エリテマトーデス・強皮症・大動脈炎症候群・ベーチェット病・癌・臓器移植・老化現象